

平戸市立南部中学校
令和7年度 学力の状況と向上のためのプラン

<学力向上プラン>

主体的に学ぶ生徒の姿 ○自己の将来の生き方を考え、意欲的に学習に取り組む生徒	
方 策 Ⅰ	【授業改善】 (1)わかる授業の実践
具体的な取組	① 授業を主軸として、将来や人生とのつながりを授業の最後に教師のことばで伝える。(学んだことの価値付けをしていく) ② めあてを確実に生徒に届ける。思考の見通しを持たせる。 ③ 指示・発問を精選し、子どもの考える時間を確保する。 ④ 授業を 10～15分のユニット(学習形態・指導内容・指導方法)で構成する。
検証方法：目指す検証結果	授業改善アンケートの向上

対話的に学ぶ生徒の姿 ○互いに意見を尊重し、安心して学びに向かう生徒	
方 策 Ⅱ	【安心して学びに向かう集団づくり：支持的風土の醸成】 (1)協働的な学び～班活動の充実～ (2)特別支援教育の充実
具体的な取組	① 班活動の充実～認め合う集団づくり～ 班編制、座席の工夫、役割分担、進行表の実践をする。 学級の中から認め合う取り組みを行い教科へと広げていく。 短学活の充実・構成的グループエンカウンター・学級会活動の実施。 道徳の振り返りの中から生徒の言葉を抽出し、深めて共有していく。 道徳教材と関連させて、SST・構成的グループエンカウンターを取り上げる。 ② 特別支援教育の充実(ユニバーサルデザインの構築) ホワイトボードで使用するペンの色やスライドの色を考慮する。色覚等において配慮が必要な生徒がいることを想定して実践する。 生徒の実態把握(困り感)から背景要因を見つめ共通実践をしていく。
検証方法：目指す検証結果	① 学力調査「話す・聞くこと」の向上 ② 学びに向かうアンケート項目の中から支持的風土の醸成、班活動における数値の向上 WEBQUにおける「配慮と関わり」の項目の数値の向上

深い学びの生徒の姿 ○新たな考え方と出会い、自分の言葉で表現し、他とつながることのできる生徒	
---	--

方 策 3	【読解力の向上】 ① 視写活動：自分の言葉で書く活動 ② 朝読書の充実
具体的な取組	① 視写活動では、週に 1 回、朝活動の時間に視写の時間を設定する。R5.11からの取り組みである。第 1 段階「書くことへの抵抗を和らげる」ことから第 2 段階「書きながら意味を読み取り要約する」ことをねらいとして、8 分間平易な問題を丁寧に正確に書き写していく。教室前面に張り出した文章を短期間で記憶し書き写すワーキングメモリーも期待できる。 ② ア 静かな落ち着いた環境で朝読書をする。 イ 読み聞かせを学期に 1 回程度設定し、校内研修としてサポートする。
検証方法：目指す検証結果	① 各学力調査の「書くこと」「読むこと」の向上 視写の文字数やタイトル書きの推移を検証する。